

一生質つよきものに而、早砂などの間にも能根深く入る所に寄田畑の岸がために植る事、

一肥しは、水肥又は牛馬踏候芝草、小肥と唱候こへなり、植付而當分水肥し壹度、又小肥に而も宜し、貳番肥は六月早の時水肥し壹度、前後貳度なり、白砂肥氣なき所は、水肥前後三度計かける、手入は中けづり壹度、草取壹度ニ候事、

一作り立、丈ケ三尺の上ニ出来、五尺ニ至る、尤手入の多少ニも寄候事、

一穂熟すれば赤色に成而、八月中旬をそこかしこ壹穂貳穂づ、熟す、熟し次第爪ニ而つみ取候得者、跡を又穂を生ず、八月下旬迄ニ凡四五度に全摘取、若熟穂を久しく捨置候得者、風にこぼれ宜しからず、又莖がらを牛馬好候事、

一穂落しは、穂を筵にひろげよくほし、凡穂壹斗ほどに、水壹升程の分量に入れ、から白に而軽く舂き、荒通いたし、當からニ付残る實を又日にほし、水不入舂て實を取、其後箕に而皮埃ふき捨實を取候事、

一實壹升ひき候得者、粉壹升貳三合になる、粉をよもぎ又は琉球芋和して、蒸餅につき喰す、別而味宜し、湯の中に粉を分量して入れ、湯ごねしてあぶり喰す、湯ごねにすれば、至而和らかめに成事、

一凡壹畝歩に平作貳斗、上作四斗、上々作にいたれば、八斗迄は收納有之候、壹反歩八石積を以、一名八石稗と唱候事、

〔重修本草綱目啓蒙<sup>十七</sup>稷ノビエ。〕

野生ノヒエナリ、數種アリ、早稗ハイヌビエト云フ、陸地路旁庭院ニ、自生ス、苗ハ狗尾草ノ如ク、扁莖叢生シ、正立セズ、夏已後穂ヲ出ス、稗子ニ似テ小サク、綠色、芒アル者アリ、芒ナキ者アリ、紫芒ナル者ヲ黒イヌビエト呼、一名クマビエ、仙臺、即藨ナリ、水稗ハクサビエト呼ブ、一名ミヅビエ、即莠